

教科 芸術(美術)	科目	美術Ⅰ	(必修)	授業時数	2 単位
				履修学年	1 学年

目 標	1. 美術の幅広い創作活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質。能力の育成を目指す。
-----	--

●学習内容

1 学期	2 0 時間	2 学期	3 0 時間	3 学期	2 0 時間
第 1 章 デザイン 1 様々なデザインを知る 2 文字デザイン 第 2 章 表現・鑑賞 1 ポスター鑑賞 2 アイディアスケッチ 3 ポスターで伝える	10 10	第 3 章 映像メディア 1 ポートレート 第 4 章 デザイン(2) 1 ポートレートをイラストレーションへ 2 コラージュ 第 5 章 作品や美術文化鑑賞 1 教科書や制作作品の鑑賞	5 20 5	第 6 章 絵画・彫刻(2) 1 表札 第 7 章 映像メディア表現(2) 1 T シャツオリジナルデザイン	10 10

教材	授業の進め方
教科書:「高校生の美術Ⅰ」日本文教出版 自主作成教材(プリント)	アクリル絵の具や紙粘土等、様々な画材を用いて平面・立体作品制作を行う。作品と向き合い、完成までの課程を大切にすることで自己理解を図る。また、完成した作品をコンセプトと照らし合わせて鑑賞し、他者理解を図る。

●身に付ける能力とそのレベル

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めているとともに、創造的な美術表現をするために必要な技術を身につけ、 意図に応じて表現方法を創意工夫している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成創造的に発想し構想を練ったり、 価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり、 自ら学び、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
	習得する (わかる)	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めているとともに、創造的な美術表現をするために必要な技術を身につけている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり、表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法		作品課題・ノート・授業観察	作品課題・ノート・授業観察	授業に取り組む姿勢や意欲(論文・レポートなどの自主的な取組も含む)

単元別 評価規準

デザイン

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	形や色、言葉などを効果的に組み合わせることで、その意図や目的、情報を明確に伝えることを可能にし、人と人とのコミュニケーションを円滑にする働きがあることを理解し、表現することができる。	社会が多様化していく中で生じる様々な課題を、デザインで解決している手立てについて考えながら、見方や感じ方を深めている。	デザインによる様々な課題解決へのアプローチを理解し、見方や感じ方を深める鑑賞や創造活動に主体的に取り組もうとしている。
	習得する (わかる)	形や色、言葉などを効果的に組み合わせることで、その意図や目的、情報を明確に伝えることを可能にし、人と人とのコミュニケーションを円滑にする働きがあることを理解している。	社会が多様化していく中で生じる様々な課題を、デザインで解決している手立てについて考え、理解している。	デザインによる様々な課題解決へのアプローチを理解し、鑑賞や創作活動に取り組もうとしている。

作品や美術文化などの鑑賞

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	造形の要素の働きを理解しているとともに、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解し、想いを巡らせることができる、	造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	美術や美術文化と豊かに関わる中で、創造性を駆使して表現された作品の、鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。
	習得する (わかる)	造形の要素の働きを理解しているとともに、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。	造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考えている。	美術や美術文化と豊かに関わる中で創造性を駆使して表現された作品の鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

絵画・彫刻

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	意図に応じて材料や用具の特性がいかせるとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すことができる。	読書を通して、本の内容から主題を生成しているとともに、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	絵画の表現について、自ら学び、学習活動に主体的に取り組んでいる。
	習得する (わかる)	材料や用具の特性を理解している。	表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考えている。	絵画の表現の学習活動に取り組んでいる。

映像メディア表現

評価の観点		知識・技術	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	映像の仕組みと特性を知り、最新技術の効果と可能性を追求し、映像技術の歴史や技術の発展と表現の関係性を理解し、創作している。	様々な技術や表現方法を考察しながら表現のよさや美しさを感じ取り、制作者の意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。	映像についての興味関心を高め、新たな映像メディアリテラシーの理解を深め、多視点から考察して主体的な意見を持ち、鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
	習得する (わかる)	映像の仕組みと特性を知り、最新技術の効果と可能性を追求し、映像技術の歴史や技術の発展と表現の関係性を理解している。	様々な技術や表現方法を考察しながら表現のよさや美しさを感じ取り、制作者の意図と創造的な表現の工夫などについて考えている。	映像についての興味関心を高め、新たな映像メディアリテラシーの理解を深めている。